

【様式1-1】

# 福島県橋梁長寿命化修繕計画

平成25年3月

福島県土木部 道路管理課

## 1. 長寿命化計画の目的

### 1) 背景

- 本県が管理する道路橋は、平成 25 年 3 月末現在、4,561 橋あり、このうち、建設後 50 年を経過する高齢化橋梁は、約 800 橋で全体の約 18%を占める。
- 20 年後には、約 3,150 橋が建設後 50 年を経過する高齢化橋梁となり、この割合が約 69%を超え、急速に高齢化橋梁が増大する。
- このような背景から、今後、増大が見込まれる橋梁の修繕・架替えに要する費用に対し、可能な限りのコスト縮減への取り組みが不可欠である。

### 2) 目的

- 今後増大する橋梁の老朽化への対応策として、従来の事後的な補修や架替えから予防的な修繕及び計画的な架替えへと転換することで、橋梁の維持管理に係る費用の縮減を図るとともに、地域道路網の安全と信頼性を確保するため、これら予防的な対策を最適な時期に実施するための事業計画を策定するものである。

## 2. 長寿命化計画の対象橋梁

単位:橋

	補助国道	主要 地方道	一般県道	合計
全管理橋梁数（計画対象橋梁数）	1,354	1,611	1,596	4,561

## 3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

### 1) 健全度の把握の基本的な方針

健全度の把握については、橋梁の架設年度や立地条件等を十分考慮して実施するとともに、福島県橋梁調査点検マニュアル（案）に基づいて定期的を実施し、橋梁の損傷を早期に把握する。

### 2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理として、パトロール、清掃などの実施に努める。

特に、排水桝の土砂詰まりの解消等簡易な予防保全対策を実施し、適切な排水処理による橋梁の長寿命化を図る。

#### 4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

○ 予防的な修繕等の実施を徹底することにより、修繕・架替えに係る費用の低コスト化を図り、トータルとしてのライフサイクルコストの低減を目指す。

#### 5. 対象橋梁の次回点検時期及び修繕内容・時期

対象橋梁 4,561 橋について、次回の点検時期と今後 10 年間で対策すべき橋梁や修繕内容についてとりまとめた結果を以下に示す。

##### 1) 点検

○ 平成 25 年度から定められた点検サイクル\*を基に、2 巡目の定期点検を実施する

※ 点検サイクル

種別	点検頻度	条件
一般橋梁点検	1回/5年	トラス、アーチなどの特殊な構造形式でない橋梁
	1回/10年	初回点検にて損傷が確認できなかったボックスカルバートおよびコンクリート床版橋（橋長15m未満）
特殊橋梁点検	1回/5年	・トラス、アーチなどの特殊な構造形式の橋梁（桁橋、床版橋を除く） ・跨線橋、跨道橋

##### 2) 修繕内容・時期

○ 橋梁点検結果を基に、路線の重要性及び劣化予測等から、将来優先的に対策すべき橋梁や修繕費用の算出を行い、今後 10 年間では、1921 橋について、事後保全及び予防保全的修繕を計画的に実施することで、将来の維持管理費用の縮減と橋梁の長寿命化対策を継続実施していくこととする。

○ なお、上記対策予定橋梁について、部材別の修繕件数及び費用内訳についてとりまとめた結果は図 1，2 のとおり。

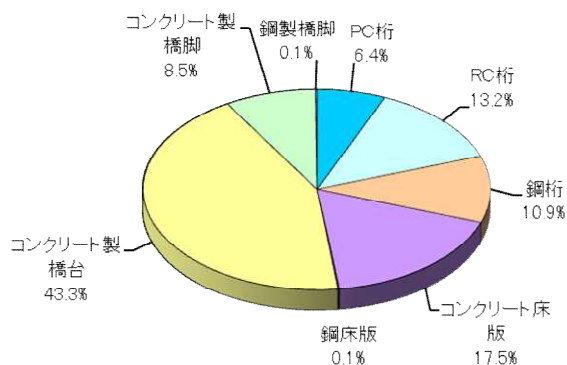


図 1 部材別の修繕件数内訳比率

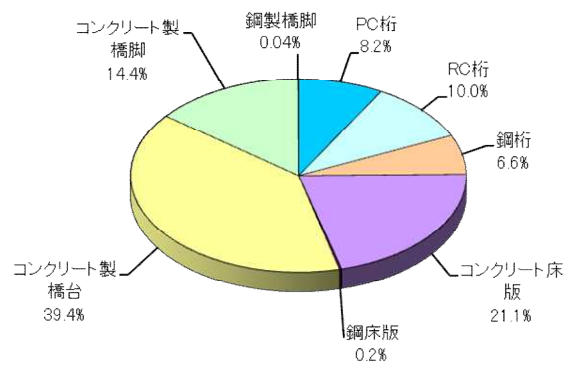
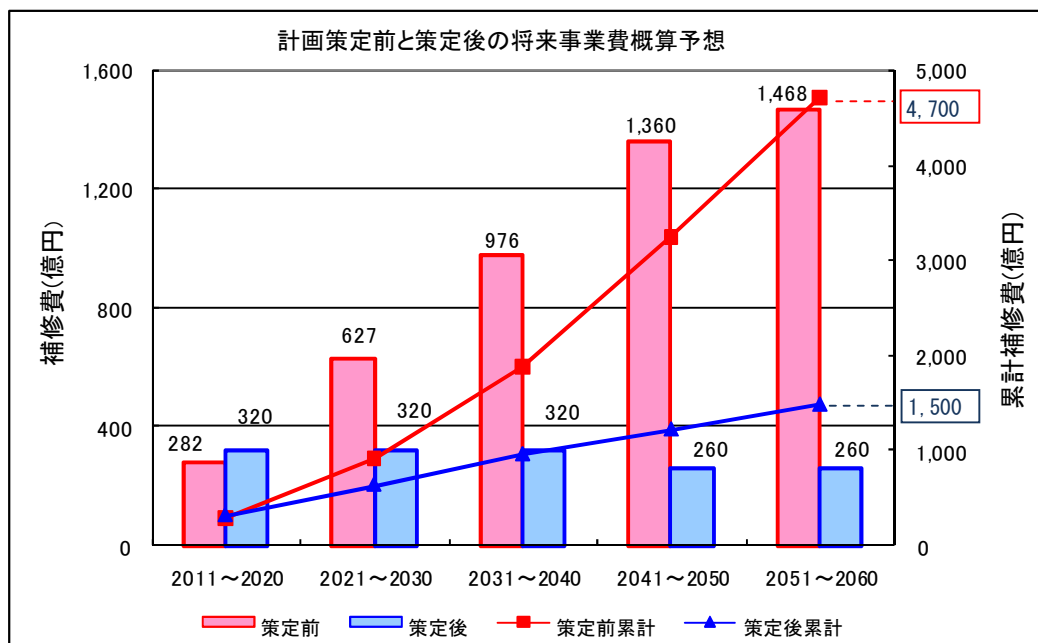


図 2 部材別の修繕費用内訳比率

## 6. 長寿命化修繕計画による効果

全管理橋梁 4,561 橋の長寿命化修繕計画の検討結果（効果）を以下に示す。

○修繕及び架替えに要する費用については、**今後 50 年間で約 4,700 億円→約 1,500 億円（約 3,200 億円の縮減）となり、約 7 割の縮減**が見込まれる。



※ 今後、橋梁の定期点検データを蓄積していくことで、費用の算出手法のさらなる精度向上が図られるため、上記費用は、現在の値に固定化されるものではありません。

## 7. 計画策定担当部所および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

### 1) 計画策定担当部所

福島県 土木部道路総室 道路管理課 tel 024-521-7474

### 2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

日本大学工学部 教授 岩城 一郎

福島工業高等専門学校 教授 根岸 嘉和

(五十音順)